

進路通信

松原市立松原中学校

第8号 6月3日

～ 122名の進路決定に向けて ～

私立高校について

これから「進学」を考える人は、公立と私立のどちらに進学するのかということを考えることは重要なポイントになります。公立と私立は、学費の面や教育課程、施設、部活動など様々な違いがあり、学校ごとに様々な特徴があります。特に私立高校は語学に力を入れている学校や部活動に力を入れている学校など、本当にさまざまな取り組みが行われています。また、私立は公立と比べて学費が高いと言われることがあります。その違いは参考に裏面にまとめています。例年、公立受験者のほとんどが私立高校の受験も希望しています。（⇒「併願」といいます。）だから、公立高校を第一希望に考える人も私立高校について、しっかりと考えていきましょう。

☆ 私立高校について

（特色）

- 経営基盤は宗教（仏教、神道、キリスト教など）や企業と関係のあるもの、それらと全く関係ないものなどいろいろ。それぞれ独特の校風や伝統、教育方針を持つ。
- 男子校・女子校・共学校がある。
- 普通科だけの学校もあれば、商業科、福祉科などを併置している学校もある。
- 大学の附属であったり、大学と連携している学校もある。
- 進学率の高い学校、就職率の高い学校など、進路もいろいろなので、自分の将来の進路をよく考えた上で選ぶことが大切。

（出願）

- 他府県の高校も受験できるが、大阪と同一日に行われるところもあるので注意。
- 出願は学校によって違うが、ほとんどがネットで出願手続きをするようになってきている。

（試験科目）

学力テスト…国数英の3教科または国社数理英の5教科がほとんど。選択の入った2教科や3教科、4教科もある。

面接 …人物評価を目的として実施している学校も多い。保護者同伴で行う学校もある。服装・態度・言葉づかいなどのマナーを普段から身につけておこう。

その他 …科やコースによっては実技試験が行われる場合もある。

（最近の傾向）

- 共学化が進んでいる。 *一部学科やコースのみ共学のところがあるので注意。
- 公立より多様な学科、コースが増えている。
- 大学との提携を深めている。大学での単位を先取りできるところもある。また、大学への推薦枠（指定校など）も公立に比べて多い。
- 学校独自の奨学制度を設けているところが多い。中学校での成績や、入試点などによる免除や現金給付の制度。（学校によってさまざま）
- 学校独自の補習や、ゼミの開講をしているところが増えている。そのほか、土曜日の授業や7時間授業などに取り組むところもある。

☆ 公立と私立の費用の違い（あくまで参考です）

下記は参考になりますが、それ以外の入学金や制服代、その他積立のお金などを比べても実際、私立と公立では大きな差があります。各学校での必要な費用は変わりますので、調べてください。

《公立高校に関する費用》（注）学校によって異なります。

受験料	全日制普通科・多部制単位制Ⅰ・Ⅱ部	2,200円
	定時制・多部制単位制Ⅲ部	950円
	通信制	800円
入学金	全日制普通科・多部制単位制Ⅰ・Ⅱ部	5,650円
	定時制・多部制単位制Ⅲ部	2,100円
	通信制	500円
授業料	全日制普通科・多部制単位制Ⅰ・Ⅱ部	月額 9,900円（118,800円）
	定時制・多部制単位制Ⅲ部	月額 2,700円（32,400円）
	通信制	1単位当たり 年額 330円
教材費（教科書、参考書など）		15,000円～40,000円程度
制服代		40,000円～70,000円程度
積立金	60,000程度	その他諸費 30,000程度

《私立高校に関する費用》（注）学校によって異なります。

受験料	15,000 円～25,000 円		
入学金	150,000～330,000 円		
授業料	年間 462,000～1,240,000 円		
教科書代	20,000～60,000 円（高校、学科、コースによって違う）		
制服代	70,000～130,000 円		
積立金	130,000 程度	その他諸費	90,000 程度

※ 高校授業料無償化制度により、所得や子どもの人数にかかわらず、授業料負担がなくなります。
（授業料が63万円を超える場合は、一部授業料負担が生じる場合があります）